

令和2年度 第12回とやま建設フォトコンテスト

総評

富山に住み富山で働く私たちにとって、日々の快適な生活のお陰で幸せを感じる事が出来るのは、安心安全を支えるインフラの整備のおかげです。

大雨や豪雪そして地震や地すべりなどの災害、河川や道路の整備等々広範囲に重要性が増しています。

当コンテストは建設業の仕事の魅力を写真で伝えたいと募集し早12年目を迎えました。

応募者は16歳から86歳までの幅広い年齢層から70名・147点の応募を頂きました。昨年より13名の応募者29点の応募数の伸びは、主催者には何よりも励みになります。

入賞作品はそれぞれのテーマに合った作品を、5名の審査員で慎重に選びました。作品の魅力や伝え方、働く人の喜びや楽しさ、物づくりの見せ方や絆など表現豊かな、魅力溢れる沢山の作品を応募いただき有り難うございました。

審査委員長 一ノ谷 敏治（富山県写真連盟委員長）

特選

【明るい未来に向かって】谷崎 悦夫（撮影場所:高岡市）



色に染め上がった空と立山連峰を背景に、クレーンがシルエット的に伸びています。その大きさから建造物の大きさも想像できます。建物全体を入れる事無く屋上から上部だけでフレーミングした事も作者の旨さを感じました。唯一満票の作品です。

「春はあけぼの」の歌が聴こえるような空の色合いです。

働く人部門賞【ただいま練習中です！】

寺西 英治（撮影場所:南砺市）

送変電の高所での作業は大変だなと思った写真でした。

カメラマンの腕前も見事ですが、目の前にいる人物の大きさに迫力が伝わって来ました。「ただいま練習中です！」は日々の練習で何本ものセーフティワイヤーが見えますが、基本の作業や高度なテクニックを習得する為、安全第一の真剣さが伝わって来る写真です。

赤い作業服がインパクトを醸し出しています。



物づくり部門賞【ブロック据付】

辻田 真莉子（撮影場所:入善町）

ブロック据え付け作業をドローンで俯瞰撮影していますが、スケールの大きな被写体や全体の情景を確認したい場合に、近年多く使われるようになりテレビなどではよく見かけるようになりましたが、この現場写真ではドローン操縦を女性がしていると聞き少し驚きました。

ドローンならではの難しさもあるとは思いますが、普通のカメラで撮影もされると思いますが、どちらの方が好きでしょうか？

絆部門賞【晴れ間に】

竹本 正（撮影場所:富山市）

青い空と赤い除雪機、残っている紅葉のコントラストが素敵な雰囲気、作業中のトントンと除雪機の音が聞えて来るような作品です。

二人での除雪作業は歩行者の事を考えながらの仲よしコンビの様に見えます。

この後2021年1月に35年振りの大豪雪が来ようとは想像も出来ませんでした。



佳作【新たな道脈】

追分 英男（撮影場所:富山市）

猪谷大橋（仮称）を41号線の反対側から撮影していますが、古い鉄橋の基礎部分が見えるのと建設中の赤い橋の部分や水辺に映っている桁の部分、工事写真を超えた1枚の芸術作品の様に見えます。

2028年度完成予定で全体事業費390億円の現在進行形の1枚です。

今回沢山の猪谷大橋（仮称）の中から選ばれた作品です。

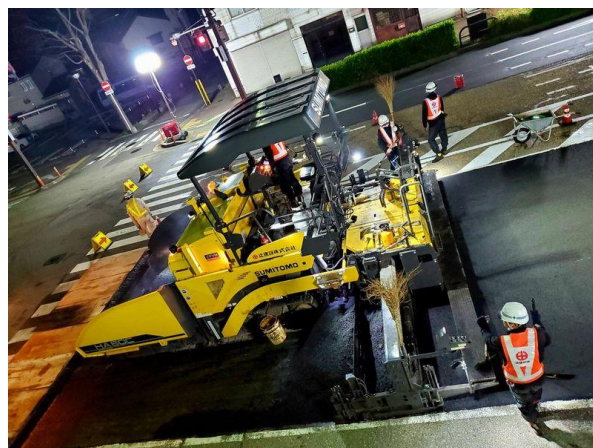


佳作【夜間作業】

佐藤 久泰（撮影場所:富山市）

片道3車線の北陸銀行本店前を通る堤町通りの、夜間工事中の現場写真です。

大型のアスファルト道路舗装機械を大勢の作業員でチームワーク良く、テキパキと時間制限内で終わらなければならない作業だと思います。普段見ることの出来ない時間と器械での作業は緊迫感が伝わって来ます。



佳作【働く人】

佐々木 つかさ（撮影場所:高岡市）

高校生の作品です。仲間の生徒の実習授業中のスナップ写真だと思います。

表情が見えれば良いのですが昨今それは難しい様です。それでも一生懸命に実習に取り組む姿は伝わって来ます。カメラの角度がやや下から良かったのと、背景と画面の構成に余分な物が入ってない事が素晴らしいです。



第12回とやま建設フォトコンテスト概要

募集時期 令和2年8月～令和3年1月

主催 (一社)富山県建設業協会

後援 富山県、富山県建設産業団体連合会、
東日本建設業保証(株)富山支店

応募点数 147点

入賞作品 7作品

募集部門

- 働く人部門……建設業で働く人々が、いきいきと誇りを持って物づくりに携わる姿等をとらえた作品
- 物づくり部門…建造物や建設機械などを対象に、建設産業のスケールの大きさや重要性等をとらえた作品。
- 絆部門……除雪活動や防災対策など、建設業と地域のつながり、人々の安心安全を守るために担っている役割・活動をとらえた作品